

津山市における 父親の育児参加推進の街づくり

FLP 地域・公共マネジメントプログラム

鳴子ゼミ A・B生

齊藤綺己 村上はるか

目次

- 1章 はじめに
- 2章 津山市の現状・課題
 - 2-1 津山市の現状
 - 2-2 津山市の課題
 - 2-3 テーマ設定
 - 2-4 2章まとめ
- 3章 調査結果
 - 3-1 仮説
 - 3-2 ヒアリング結果
 - 3-3 ヒアリングまとめ
 - 3-4 3章まとめ
- 4章 調査結果の考察
 - 4-1 ヒアリングの考察
 - 4-2 課題
 - 4-3 4章まとめ
- 5章 政策提言
 - 5-1 短期策提案の背景
 - 5-2 短期策 ガイドブック設置場所
 - 5-3 短期策 家事育児分担表の作成長期策
 - 5-4 長期策提案の背景
 - 5-5 男性育児サポートグループの結成
 - 5-6 5章まとめ
- 6章 総括
- 参考文献

1章 はじめに

今回、鳴子ゼミは2024年度サマースクールにて、津山市の育児支援をテーマに活動を行った。現代の日本は少子高齢化が進行し、子どもの数が減少している。もちろん少子化への対策を行っている自治体は多く存在するが、金銭的な負担や仕事との両立が難しいことから、出産率はあまり増えていない。子どもの数が増えなければ、日本の経済は衰退し社会保障費などの維持が難しくなる。これは今後の日本にとって重要なテーマであり、将来を生きる私たちにとっても考えるべきテーマである。そこで、子どもの数を増やすことに貢献できるであろう子育て支援に関するテーマについて研究することにした。

子育ては家庭内での負担が大きく、それによって子どもを出産する人も減少している。そのため、子育て支援により取り組む必要があると考えられる。特に津山市でのヒアリングでは男性や働く人への子育て参加の働きかけが不十分であるように感じた。そこで父親に対する子育てへの働きかけを行い、津山市での子育て環境がより向上させるべきだと考える。ここでは、働く父親への子育て参加の政策提言について示したい。

2章では津山市の現状を捉え、課題について検討する。3章ではサマースクールでのヒアリング結果を示す。4章ではヒアリングを踏まえた課題について検討する。5章では課題に対する政策提言を行う。6章では全体のまとめを示す。

2章 津山市の現状・課題

ここで津山市について調査した結果を示す。津山市の特徴と現状、課題について検討したいと思う。

2-1 津山市の現状

今回、サマースクールで実施した津山市は岡山県の北部に位置し、約10万人が生活している。また、津山市の中心部には津山城が存在し、その周辺には城下町のような街並みが残っている。

まず、津山市の人口について注目する。「津山市第五次総合計画」によれば、昭和55年以降増加傾向にあったが、平成7年から減少している(図表1)。また、0歳から14歳を指す年少人口は年々減少傾向にある一方で、65歳以上を指す老年人口は増加している(図表2)。津山市では、出生率低下、少子高齢化が進行し、将来生産年齢人口も減少することが予想されている。よって少子高齢化が津山市に大きな影響を与えることが分かる。

そこで津山市では2年に1度「津山市子育て支援ガイドブック」を制作し、紙媒体、電子媒体どちらでも配布している。ガイドブックには、「子育てカレンダー」や医療機関、保育施設、市民サークルなどが掲載され、一冊で情報がほとんど取得できるようになっている。

次に津山市の男女間の差について注目する。「令和3年津山市男女共同参画市民アンケート調査結果報告書」によれば、「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」という質問項目に対し、「そう思わない」と回答する人が平成23年度で45.9%となっているが、令和3年度で63.7%となっている。また、「どちらかというと思わない」と回答する人が平成23年度で21.2%となっているが令和3年度で25.3%となっている(図表3)。以前より男女間の役割の意識が変化していると言える。

一方で家庭内での男女間の役割についてのアンケートでは、「生活費を得る」の項目は「主として夫」や「夫婦同じ程度」であるとの回答が多いが、「掃除をする」、「洗濯する」、「子どもの世話をする」などの項目は、「主として妻」との回答が目立つ(図表4)。これらの点で、夫婦で労働する家庭が多いと言えるが、家事育児は妻が多く行っていることが分かる。そのため、意識と実際の状態でギャップがあるように感じられる。

次に、男性の育児休暇取得率について注目したい。津山市の育児休暇取得率は30.1%と

なっている。一方で、岡山県内の自治体である岡山市では 56.7%となっており、津山市の方が低い状態になっている（図表 5）。

図表 1 人口の推移

◆人口の推移 (単位：人、%)

	年次	人口	増減数	増減率
実績	平成2年	112,386	—	—
	平成7年	113,617	1,231	1.1
	平成12年	111,499	△ 2,118	△ 1.9
	平成17年	110,569	△ 930	△ 0.8
	平成22年	106,788	△ 3,781	△ 3.4
推計	平成27年	102,689	△ 4,099	△ 3.8
	平成32年	98,852	△ 3,837	△ 3.7
	平成37年	95,000	△ 3,852	△ 3.9

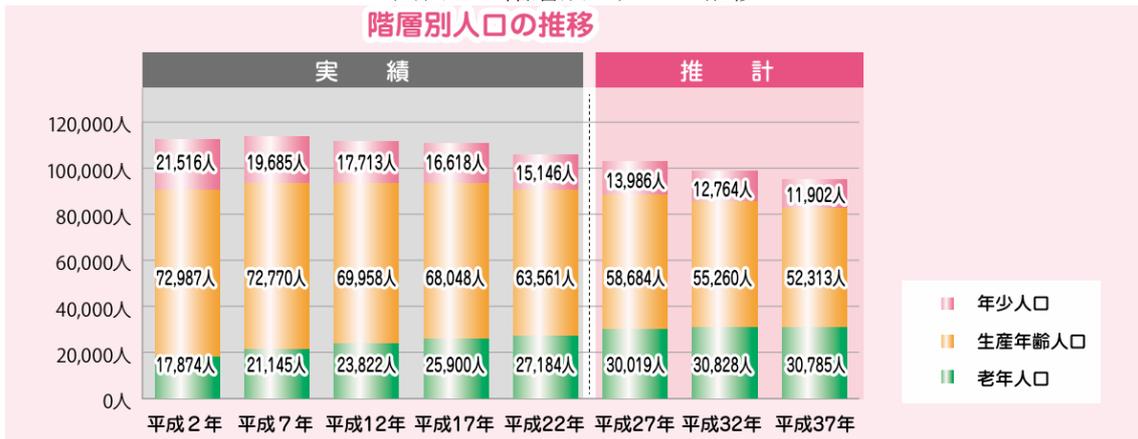
(資料：国勢調査)

出所：津山市第五次総合計画 津山開花宣言（平成 28 年度 4 月発行）

<https://www.city.tsuyama.lg.jp/common/photo/free/files/3109/201604141516230424687.pdf>

図表 2 階層別の人口の推移

階層別人口の推移



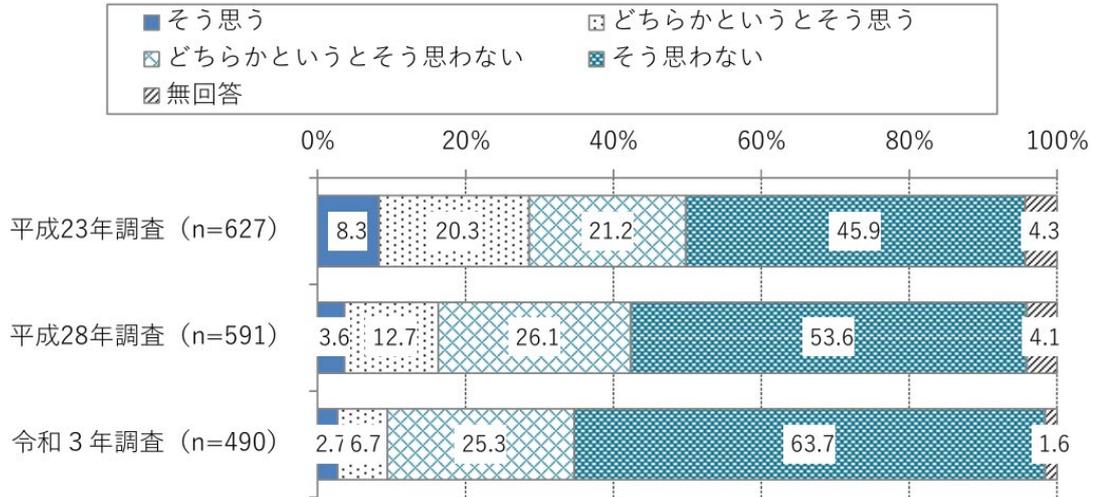
(資料：国勢調査)

※年少人口：0～14歳 生産年齢人口：15～64歳 老年人口：65歳以上

出所：津山市第五次総合計画 津山開花宣言（平成 28 年度 4 月発行）

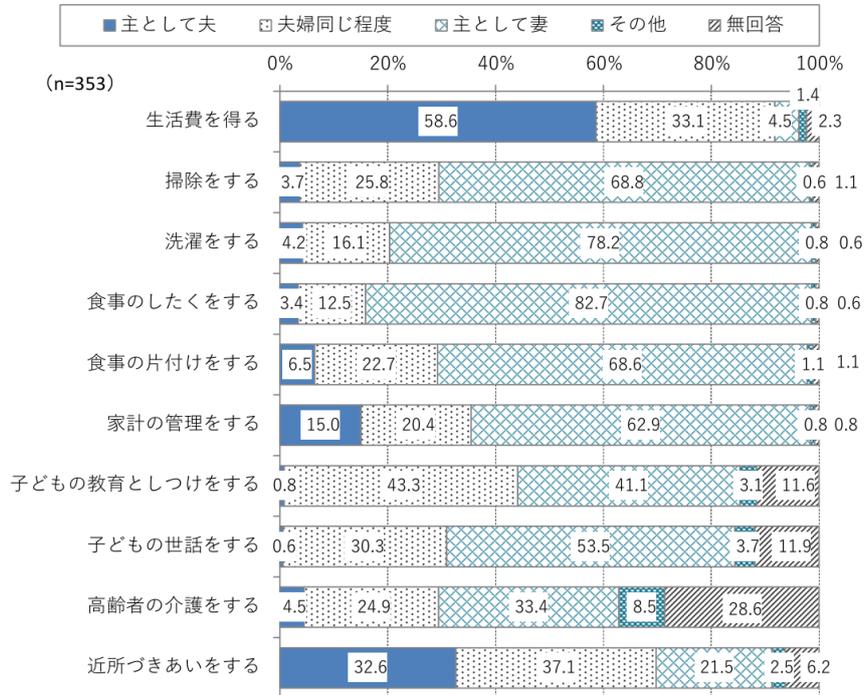
<https://www.city.tsuyama.lg.jp/common/photo/free/files/3109/201604141516230424687.pdf>

図表3 経年比較「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」



出所：令和3年津山市男女共同参画市民アンケート調査結果報告書
<https://www.city.tsuyama.lg.jp/common/photo/free/files/1281/202202261453060421738.pdf>

図表4 「既婚（事実婚を含む）」と回答した方を対象とした設問『あなたの家庭では(1)～(10)の仕事は夫婦のうち、どなたが主に担当されていますか?』



出所：令和3年津山市男女共同参画市民アンケート調査結果報告書
<https://www.city.tsuyama.lg.jp/common/photo/free/files/1281/202202261453060421738.pdf>

図表5 育児休暇取得率

育児休暇取得率



上から 75.2%、61.8%、60.5%、58.8%、56.7%、30.1%
出所：男女共同参画推進状況報告書 集計結果報告書（令和5年）と
地域情報サイト「まいふれ」（令和5年）を基に鳴子ゼミ作成

2-2 津山市の課題

津山市では少子高齢化や生産年齢人口が減少していることが分かった。より出産や育児支援を行わなければならない。厚生労働省によれば「15～64歳人口の大幅な減少は、経済活動における供給（生産＝働き手）と需要（消費＝モノ・サービスの買い手）のギャップを招き、個々の企業にとっても人手不足など既に大きな課題となる」と示しており、津山市でも地域の働き手不足を解消する必要があると考えられる。そのため、津山市での子育て支援をより拡充することで、子どもを持つ家庭により良い暮らしを提供することが求められる。

また、男女間の役割についても意識と実情でギャップが生じていることが分かった。現在は共働き世帯が増加し、夫婦ともに正規雇用者として働いている。その中で、家事育児が妻の役割となっている状態を解消しなければ、子育てへの負担感が増し、子どもを持つこと自体をためらう家庭が増えることも予想される。

2-3 テーマ設定

現在、少子高齢化が進行している津山市では、より子育て支援を拡充させる必要があると考える。特に、妻の負担が大きくなっている現状から、夫への働きかけを強化させるべきである。そこで「津山市における父親の育児参画推進の街づくり」というテーマを設定した。父親が子育てに参加しやすいような提案を行いたいと思う。

2-4 2章まとめ

津山市では少子化が起こっていること、夫婦間の家庭内の役割に差があると分かった。両親への働きかけは行われており、ガイドブックなどを活用し、支援が行われている。しかし、アンケート結果によると、男女間の役割に差があり、家庭内の役割の再配分が必要であると考えられる。そこで父親に対して市からの働きかけを行うべきだと考える。

3章 調査結果

2章で示した結果から仮説をたて、ヒアリングを行った。その結果を示す。

3-1 仮説

2章で示した調査結果から、父親が子育てに参加しやすい働きかけをすべきであると考えた。そこで2つほど仮説を立てた。

まず、地域コミュニティを活用し、負担を分担させれば育児がしやすいのではないかと考える。ここでは子育ての負担感に注目した。家庭内だけで子育てを完結させることは負担が重くなるため、例えば、地域子育て支援センターを父親の相談所として活用し、男性サポートグループなどの父親ネットワークを結成することができると思う。

次に、家事育児分担表を作成するというものだ。ここでは男女間の役割の差に注目した。アンケート結果にも示されていたように、夫婦間の役割に差がある。この差は、夫婦間の情報格差によるものだと考え、何をすべきか父親に意識させることができるのではないかと考えた。

3-2 ヒアリング結果

こども保育課、津山子育て支援センター、津山西幼稚園

- ・ 休日は両親ともに訪問する
- ・ 津山西幼稚園については公民館が併設されているため、地域のつながりを作ることができる⇒園と地域で老人クラブとの関わり合いを最近始めた（芋ほり体験）
- ・ 紙媒体、アプリ（母子モ）を利用してイベントや必要な情報が全員に届くように工夫
- ・ 職場の理解があまりなく、男性の育休が取りにくい⇒男性が子育てに参加しづらい
- ・ 市や支援センターでのイベントは夫婦で参加するように働きかけている

こちらへは津山市の子育て環境について伺うためヒアリングを行った。

子育て支援センターは、母親の訪問が多いが、休日には両親、父親のみで来訪することもあるそうだ。子育て支援センターの利用は、家にはないおもちゃなどが置いてあり、子どもたちが楽しめる環境にあるからだ伺った。

津山西幼稚園には公民館が併設されており、高齢者とのかかわりも増えているようだ。地域づくりの拠点として活用されている側面もある。しかし、西幼稚園以外の場所では地域交流があまり進んでいない。そのため、今後地域交流を増やすような取り組みを行うと伺った。

子育て支援は「津山市子育て支援ガイドブック」だけでなく、アプリなどを利用してイベント情報を周知しているそうだ。子育てカレンダーを掲載し、どのような子育てサポートを行っているのか一目でわかるよう工夫がなされていた。また、イベントに関しては夫婦で参加するように呼びかけをしている一方で、父親のみに対して参加を呼び掛けることは難しいと伺った。さらに、男性が育児に参加しづらいのは職場の理解があまりなく、育児休暇が取得しづらいからなのではないかともおっしゃっていた。

株式会社おもちゃ王国

- ・ 利用者…平日は母親メイン、休日は家族
- ・ 帰省中や旅行中に利用している方もいる
- ・ 大人と一緒に遊べるおもちゃがある
- ・ 様々なおもちゃがあるため利用してくれているのでは⇒おもしろいおもちゃがあれば、購買意欲にもつながる
- ・ 月1回保育士資格を持つ方との相談会「ブレイクタイム」がある
- ・ 課題としては利用者が休日に増加し、せっかく来てくれた方が利用できない状態であること
- ・ コロナ禍で中断していた月1回のイベントを復活させたい

こちらへは津山市の子育て環境の一つの例であり、どのように運営を行っているか伺う

ためヒアリングを行った。

株式会社おもちゃ王国は、アルネ・津山の3階にある有料で遊べる屋内施設である。平日は母親とともに、休日には家族で利用する方が多いそうだ。多くの人が集まるため、その場限りのつながりができると伺った。また、月1回に行われていたイベントで相談会なども開かれ、遊びと相談が同時にできる場所であった。

NPO 法人 みる・あそぶ・そだつ

- ・子供も含めて1人の人間として権利を与え、意見箱などを利用しキャンプやお楽しみ会を運営している
- ・幼稚園生から老人といった幅広い年代の会員がいるため、鑑賞会の運営やお楽しみ会などを通じて他校や異年齢との交流が起きている
- ・子供たちを含めた会員の意見を取り入れているためNPO法人の職員の方で考えているイベントなどはないが、コロナ禍でできなくなったイベントなどを再開できると良いと考えている

こちらへは運営方法が地域交流の参考になるためヒアリングを行った。

NPO法人みる・あそぶ・そだつでは子どもの舞台芸術鑑賞に関する事業を行っており、大人も子どもも平等な関係性で、イベント運営を行っている。それによって、子どもの自立をはかり、親の居場所づくりとしての機能も果たしている。一方で、平和な家庭がイベントに参加することが多く、支援を本当に必要としている人にはサポートが届いていないという課題も伺った。さらに、共働き世帯はイベントに参加しづらいのではないかとということも分かった。

仕事・移住支援室

- ・仕事・移住支援室の担う役割は新しく移住してくる人々が満足できるような住まいや暮らしを提供すること
- ・行政機関が空き家の所有者と不動産業者とのマッチングを行うメリットは信頼でき、情報発信力を生かせる点
- ・地元の大学生が行う空き家事業は、市の助成金により三世代交流を行う拠点として活用されている

こちらでは空き家を福祉施設に利用できるのではないかと考えヒアリングを行った。

市の助成金によって交流施設を設置している。そのため、福祉施設として活用できる可能性もあったが、管理をどのように行うのかなど問題点があるため、難しいと伺った。

3-3 ヒアリングまとめ

ヒアリングの結果、子育て家庭専用のガイドブックや子どもの遊び場の充実度から子育て支援は行き届いているように感じられる。しかし、父親や共働き世帯への働きかけをより行える余地があるように思う。

3-4 3章まとめ

子育てへの関心が高く、様々な部門で働きかけが行われていることが分かった。さらに、父親や働く人へ子育てが参加しやすくなるような取り組みを行えるのではないかと考えた。

4章 調査結果の考察

2章でのデータ、3章での調査結果に対する新たな考察を示したいと思う。それに伴い

みえた課題についても示す。

4-1 ヒアリングの考察

以上のデータやヒアリング結果を踏まえ、新たに二つの考察を立てた。

一つ目は、働く男性でも育児に参加しやすいような取り組みが必要だということだ。共働き世帯が増えている中で、母親がほとんど家事や育児を行い、家庭内において父親と母親の負担が異なっている。この問題は、父親が家事や育児の内容やそれに伴う負担を理解していないため、生じるのではないかと考える。

二つ目は、津山市のみならず、岡山県内でも同じ傾向がみられるということだ。県全体として、男性の家事や育児に対する意識改革が進んでいないため、自分も家族の一員として家事や育児を行うという当事者としての意識が欠如しており、結果として認識や情報の格差に繋がるのではないかと考える。

4-2 課題

ヒアリング結果より、三つの課題が見えた。

一つ目は、父親にどれほどイベントの情報が伝わっているのかということだ。市によって、家庭に対し夫婦でイベントに参加するように、との働きかけが行われているようだが、実際にどれほどの父親に情報が伝達されているかは定かではない。

二つ目は、父親間で情報の格差があるのではないかとということだ。先述したイベントについての情報のみならず、家事や育児の方法などに対しても父親間で意識の違いなどから情報の格差がある。

三つ目は、父親が育児の相談の場を十分に利用できていないのではということだ。津山市では、子育てに関する悩みを相談できる場がいくつか設けられているものの、母親の利用が多い状況にある。このような状況のなか、実際に父親は十分に制度を利用できているのだろうか。

4-3 4章まとめ

津山市では育児に対する支援や設備が充実していることがわかった。それと同時に、働く男性に対しての家事や育児参加についての働きかけが十分に行われていないことも分かった。

5章 政策提言

ヒアリング、調査結果をもとに政策提言を示す。6年後に向けた短期策、20年後に向けた長期策に分け、順に示していく。

5-1 短期策提案の背景

短期策を6年後に向けてと設定した理由として、津山市におけるガイドブックの存在があげられる。津山市では株式会社サイネックスと合同で作成したガイドブックが存在し、その中で子育てに関する情報が子どもの年齢ごとに網羅されている。このガイドブックが2年に一度発行されているため、3度新しく発行される内に達成できたらと考え、6年に設定した。

5-2 短期策 ガイドブック設置場所

提案する短期策の一つ目はガイドブックの設置場所についてだ。現状では、市民窓口課やすこやか・こどもセンターなどに置かれている。しかしそれでは子育てに関わる人の手に十分に届いているとは考えられなかった。

そのため、企業や病院、美容院といった子育てをする人が多く集まる場所や、待ち時間

が発生しやすい場所に設置することでより多くの人に手にとってもらいやすい状況にした
いと考える。

5-3 短期策 家事育児分担表の作成

提案する短期策の二つ目は家事育児分担表の作成だ。男女における家事や育児に対する意識の差がある中で、家庭内における家事育児の担当を決めることで、円滑に進められるのではないかと考えた。津山市内の母親クラブや親子クラブが主体となり作成したものを実際にガイドブックに掲載し、家庭内で取り入れることで、円滑に進むのみならず意識の差を縮められると考えた。

家事育児分担表は実際に大阪市、福井市、新潟市などで既に取り入れられており、各市ごとに工夫がされている（図表6、図表7、図表8）。また分担表の作成のみならず、分担表に追加して現状把握のためのチェックシートの導入もみられる。

これらを踏まえ、基本的な家事育児をまとめた「基本版」と労力がかかる内容や、家事育児に本格的に参加した際には難しい「チャレンジ版」に分ける、「現状分析分担表」を作成し改めて自分の内で家庭内での担当量を把握する、現状把握の際には可視化しやすいように枠内の色を塗るなどして実際の量を割合で可視化しやすいようにするといったことを取り入れると、家庭内での生活が円滑になり、意識の差も縮まるのではないかと考える。

図表6 家事・育児100条

現在の担当(夫・妻・両方)に○をつけて、数をかウントしてみよう。「他」の欄には、「×(しない)」「祖父母(に頼む)」「子ども(お手伝い)」「業者(外注)」など、家庭の事情に応じて自由に記入しよう。

NO	家事・育児	夫	妻	両方	他
1	洗濯物を集める				
2	洗濯物の選別し、ポットを洗濯する				
3	洗濯物を仕分けネットに入れる				
4	しつこい汚れの染みを抜く				
5	洗濯機に洗剤や柔軟剤を入れる				
6	洗濯機のスリッパを入れる				
7	洗濯機から取り出して干す				
8	洗濯物を干し干から取り込む				
9	洗濯物を畳む				
10	洗濯物を収納する				
11	タオルを交換する				
12	アイロンをかける				
13	洗濯機のフィルターを掃除する				
14	布団を干す・シーツを洗う				
15	クリーニングに出す				
16	部屋の整理整頓をする				
17	リビング・各部屋を掃除する				
18	トイレ掃除をする				
19	お風呂掃除をする				
20	台所を掃除する				
21	鏡を片付け、玄関を掃除する				
22	洗面所を掃除する				
23	排水溝を掃除する				
24	窓やガラス、鏡を拭く				
25	家具まわりのホコリを拭く				
26	ベランダ・庭を掃除する				
27	掃除機のフィルター交換				
28	ゴミを袋の、分別する				
29	ゴミを出す				
30	新しいゴミ袋をセットする				
31	粗大ゴミの回収申込みをする				
32	エアコンの掃除・加湿器の水補充				
33	薪を煮る				
34	米を洗う・ご飯をたく				
35	食事を作る				
36	食前に食卓を拭く				
37	おしぼりや取り皿を並べる				
38	食事をよそう				
39	食器を台所へ下げる				
40	食後に食卓を拭く				
41	食器・鍋蓋を洗う				
42	食器を拭く				
43	食器を食器棚へしまう				
44	洗った食器を乾燥する				
45	シンク内を綺麗にする				
46	お弁当をつくる				
47	お茶をつくり熱く、冷やす				
48	冷蔵庫の中を整理する				
49	在庫管理・買物のリストアップ				
50	買物をする(食料・日用品)				
51	買ってきた物をしまう				
52	カーテンを開閉する				
53	郵便物をチェックし、処理する				
54	新聞・夕刊を取りに行く				
55	家計管理をする				
56	公共料金の支払い手続きをする				
57	電球・電池を取り換える				
58	トイレペーパー・衛生用品の補充				
59	衣類の修繕・ボタン付けをする				
60	衣類を洗う				
61	家族の写真・動画を整理する				
62	ペットの世話をする				
63	植物の水やりをする				
64	自転車のタイヤに空気を入れる				
65	車の給油・洗車をする				
66	レジャーの計画を立て、予約する				
67	紙媒体と連絡を取る				
68	お中元・お歳暮等を準備する				
69	地域の行事に参加する				
70	朝、子どもを起こす				
71	子どもの食事を補助する				
72	子どもの歯磨きを仕上げ				
73	子どもの髪を結ぶ				
74	子どもの着替えを補助する				
75	保育園・幼稚園の送迎をする				
76	子どもの水筒・弁当箱を洗う				
77	子どもにおやつを出す				
78	子どもと遊ぶ(家の中で)				
79	子どもと遊ぶ(屋外で)				
80	学校側からのお便りを確認する				
81	子どもの宿題・勉強をみる				
82	子どもの習い事の送迎をする				
83	子どもの習い事の準備をする				
84	子どもの持ち物を確認する				
85	子どもの持ち物を返却する				
86	学校側の行事に参加する				
87	子どもを病院へ連れて行く				
88	子どもを放ませる・乗る				
89	子どもの髪型をする				
90	子どもの爪を切り、耳を掃除する				
91	子どもの靴を洗う				
92	子どもの風呂に入れる				
93	絵本の読み聞かせをする				
94	夜、子どもを寝かしつける				
95	おむつを交換する				
96	夜泣きに対応する				
97	離乳食を作る				
98	ミルクを作る				
99	沐浴を行う				
100	予防接種や検診に連れて行く				

出所:大阪市「家事・育児シェアチェックシート」を活用しませんか(吉本興業株式会社の芸人さんによる啓発動画) (…>男女共同参画・女性の活躍推進>男女共同参画の取組み

<https://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000525210.html>

図表7 夫婦で納得!! 『家事・育児シェア』見える化シート

夫婦で納得!『家事・育児シェア』見える化シート

チャレンジ!(理想のシェアを見つけよう)

- チェックで作成したシートを見ながら、パートナーに話し合いたいことややり方について話し合いたいことなどを話し合って理想の形を見つけよう。
- 話し合った結果を記入しよう。(○をつけていこう)
- 毎日つとめるに決めておこう。
- このシートのとおり、シェアしてみよう。

期	朝食を作る	弁当を作る	洗濯物を干す	テーブルを拭く	おがずや取り皿などを並べる	ごはんをよそう	味噌汁をよそう	食器を下げる	食器を洗う
朝	ペット、植物の世話をする	リビングを片付ける	洗濯機を回す	洗濯物を干す	ゴミを集めて出す	ベッドを整える	お茶を淹らす	お茶を淹らす	タオルを交換する
日	朝食を子どもに食べさせる	子どもを着替えさせる	子どもの歯磨きをする	子どもの持ち物を確認する	保育園に送っていく	オムツを替える	ミルクを飲ませる		
夕	夕食を作る	ご飯を炊く	テーブルを拭く	おがずや取り皿などを並べる	ごはんをよそう	味噌汁をよそう	食器を下げる	食器を洗う	洗ったご飯をラップする
夜	お茶を淹らす	食器を洗う	生活用片を片付ける	買ったものを片付ける	郵便物を取る	ペット、植物の世話をする	風呂をわかす	風呂を掃除する	台所を掃除する
休	洗濯物を干す	洗濯機を回す	洗濯機を回す	洗濯機を回す	洗濯物を干す	洗濯物を取り込む	洗濯物をたたむ	洗濯物をたたむ	食器の消毒をする
月	保育園に行く	子どもに手を洗わせる	夕食を子どもに食べさせる	子どもと遊ぶ	子どもの歯磨きをする	子どもの服を洗う	子どもにパジャマを着替えさせる	子どもの靴を洗う	子どもを寝かしつける
水	連絡帳をつける	オムツに反応する	夜泣きに反応する	オムツを替える	ミルクを飲ませる	アイロンをかける	お茶を淹らす		
木	シーツ類を洗濯する	グリーンングに出す	ベランダや庭を掃除する	トイレを掃除する	新聞をまとめて捨てる	電器を取り換える	洗濯する	ボタンをかけ直す	衣替えをする
金	子どもを保育園に連れて行く	子どもに食事を与える	子どもを保育園に連れて行く	子どもの爪を切る	子どもの靴を洗う	子どもを保育園に連れて行く	子どもを保育園に連れて行く	保育園へ行く準備をする	保育園にお預めの連絡をする
土	自由会などの参加に出発する	お金の管理をする							

出所: 福井市「夫婦で納得!『家事・育児シェア』見える化シート」
<https://www.city.fukui.lg.jp/kurasi/jinken/danjyo/mieruka.html>

図表8 我が家の家事・育児分担表

項目	内容	担当者	備考
食	の米を研いで炊飯する。	ママ	保育園、幼稚園に送る上に行く。
	朝食を準備する。	ママ	連絡帳をチェックする。
	朝食の片付けをする。	ママ	子どもの手を洗う。
	朝食の食器を洗う。	ママ	子どもの歯磨き。
	朝食の食器を片づける。	ママ	子どもの服を洗う。
	テーブルを拭く。	ママ	夕食を子どもに食べさせる。
	弁当を作る。	ママ	子どもを保育園に入れる。
	水筒を準備する。	ママ	子どもの服を洗ってパジャマを着せる。
	弁当箱を洗う。	ママ	子どもの服を洗う。
	夕食の準備をする。	ママ	子どもの歯磨きをする。
洗	洗濯機を回す。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	洗濯物を干す。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	洗濯物を取り込む。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	洗濯物をたたむ。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	洗濯機を回す。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	洗濯機を回す。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	アイロンをかける。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	洗濯機やトイレのタオルを取り換える。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	掃除機をかける。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	ゴミを捨てる。	ママ	子どもの歯磨きをする。
育	お風呂を準備する。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	お風呂のスイッチを入れる。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	トイレを掃除する。	ママ	子どもの歯磨きをする。
	ゴミを捨てる。	ママ	子どもの歯磨きをする。

出所: 新潟市北区 子育てガイドブックままきta バックナンバー 第8号
<https://www.city.niigata.lg.jp/kita/kohoshi/mamakita/backnumber.html>

5-4 長期策提案の背景

長期策を20年後に設定した理由として、参考にした川崎市の男性育児サポートグループ

の存在があげられる。この男性サポートグループでは、グループの運営が安定するまでに10年以上かかっている。これを踏まえ、サポートグループの設立に留まらず、運営が軌道にのるまでを見越し、20年に設定した。

5-5 長期策 男性育児サポートグループの結成

提案する長期策は男性育児サポートグループの作成である。先述した通り、実際に川崎市に「川崎パパ塾」という男性育児サポートグループが存在する。「川崎パパ塾」では父親が子育てと地域について学べる講座を運営している。専門講師ではなく、同じ地域に暮らす父親が講義をし、自らの子育て経験で培った色々なノウハウを次世代の父親に語り継いでいる。実際に先行研究においても、実際に育児を体験している人と交流をもち、実体験から情報を得ることが有効であるという研究結果がでている。また講座の中に実践を取り入れると集中力や定着率があがるという。

以上の「川崎パパ塾」と先行研究を参考に、津山市における男性育児サポートグループでは、市が主導となり市内の企業や家庭に呼びかける、ZOOM などオンライン環境を利用したオンライン参加を可能にしオンラインは参加費無料、対面は講座の中に実践を含むため参加費を500円から1000円とする、仕事帰りの参加が可能ないように開始時間を遅い時間に設定する、SNS など様々な媒体を活用することで、多くの人々の目に触れる機会を増やすといったことができたかと考える。

提案した運営方法についていくつか加筆する。一番目にあげた「市が主導となり市内の企業や家庭に呼びかける」についてだが、例をあげると企業に対しての呼びかけの際は人事部門やダイバーシティ担当といった育児や男女平等を意識した制度の導入を進めている部署を対象にすると効果的だと考える。また企業の責任者への呼びかけ、企業全体へ市の広報媒体の使用、市主催での企業向けの説明会が開催できると良いと考える。家庭への呼びかけの際は、図書館や保育所、地域センターなどといった市内の各施設での案内やSNSやWEBサイトの活用、地域の子育てイベントでの宣伝により呼びかけられたらと考える。次に対面での講座についてだが、先述した通り講座の中に実践を取り入れると効果的であるとわかったため、座学のみならず実際に体験できる講座にし、テーマとしては写真の撮り方や料理、片付けのやり方といった「育児に参加するテーマ」や叱らない子育ての方法といった「具体的な育児のやり方に関するテーマ」が良いと考える。これにより男女の家事育児に対する情報格差を縮められると判断した。

5-6 5章まとめ

提案した政策提言の根本は、男女間の家事育児に対する情報格差を縮めるということである。実際のアプローチはそれぞれ違うものの、結果としては男性の家事育児の参加により、働く女性の負担軽減が可能なのではないかと考える。家庭内や職場などにおける男女平等を一度に解決することを目指すのは現実的に困難ではないかと思うが、以上のようなことを進めることで結果として男性の家事育児の参加に繋がると考える。

6章 総括

本研究では、様々な視点から男女間の家事育児に対する情報格差を縮めることで、男性の家事育児参加の推進を期待するものである。仮説としては、地域コミュニティの活用による子育ての負担と、家事育児分担表の作成による男女間の家事育児に対する情報格差の軽減をあげた。その結果、実際に津山市に育児に関する地域コミュニティは存在するものの、男性の参加率は高くないということ、また家事育児に対しては、やはり女性の負担が高い傾向にあることが分かった。そのため提言した政策をもとに、男性の育児参加のきっかけを作り男女間の家事育児に関する情報格差を縮め、津山市における家事育児への意識向上を目指し、結果として男女平等、女性の社会進出の促進ができたかと思う。

参考文献

- ・清水里美 馬見塚珠生 矢本洋子
「子育て支援プロジェクトにおける父親グループの特徴と活動内容との関連」
『平安女学院大学研究年報』第17号 2016
- ・宮本由貴子
「父親同士の交流の現状と可能性—子どもをきっかけとした父親同士の関係性をもたらす効果—」『Life Design Report Summer』2014. 7 第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部
- ・津山市第5次総合計画
<https://www.city.tsuyama.lg.jp/common/photo/free/files/3109/201604141516230424687.pdf> (閲覧日：2025. 1. 24)
- ・川崎パパ塾
<https://papamama2010.com/> (閲覧日：2024. 10. 15)
- ・特産物のご紹介
<https://www.kane-tatsu.jp/tsuyama-area/special-product/> (閲覧日：2024. 10. 26)
- ・大阪市 家事育児分担表
<https://www.city.osaka.lg.jp/shimin/page/0000525210.html> (閲覧日：2024. 10. 22)
- ・福井市 家事育児分担表
<https://www.city.fukui.lg.jp/kurasi/jinken/danjyo/mieruka.html> (閲覧日：2024, 10. 22)
- ・新潟市北区 子育てガイドブックまま kita バックナンバー 第8号
<https://www.city.niigata.lg.jp/kita/kohoshi/mamakitabacknumber.html>
(閲覧日：2024. 10. 22)
- ・津山市男女共同参画民アンケート調査結果報告書
<https://www.city.tsuyama.lg.jp/common/photo/free/files/1281/202202261453060421738.pdf> (閲覧日：2024. 11. 12)
- ・岡山市男女共同参画に関する市民意識・実態調査 結果報告書
<https://www.city.okayama.jp/shisei/cmsfiles/contents/0000005/5602/hyousi-1.pdf>
(閲覧日：2024. 11. 19)
- ・倉敷市男女共同参画に関するアンケート結果
<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/secure/87988/questionnairecitizen.pdf>
(閲覧日：2024. 11. 19)
- ・政令指定都市の男性の育児休業取得率ランキング
https://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/ranking_seirei.html
(閲覧日：2024. 11. 19)
- ・津山市男性育児休業取得率
https://tsuyama.mypl.net/article/ikukyu_tsuyama/89816 (閲覧日：2024. 11. 19)
- ・厚生労働省「少子化の影響と主な対策に関する整理」
<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2002/06/s0614-3a.html#top> (閲覧日：2025. 1. 24)
- ・厚生労働省「人口減少社会への対応と 人手不足の下での企業の人材確保に向けて 2021年4月1日～人材不足解消のカギは仕事と子育ての両立支援!～」
<https://www.mhlw.go.jp/content/001182285.pdf> (閲覧日：2025. 1. 24)